

令和6年度 上永谷駅前地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

令和6年7月に開所した地域ケアプラザであり、まず職員が積極的に地域に出て、地域の活動団体の皆様や事業者の皆様と顔の見える関係を構築します。次に地域ケアプラザの役割や事業を知ってもらうため、広報誌の発行をはじめ、SNSの活用、地域の会議への参加などをあらゆるものを利用して広報を行っていきます。

把握した地域の特性を踏まえて、自主事業の企画・実施や、地域支援、要援護者の支援などに取り組んでいきます。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	☐	令和6年7月開所の施設であるため、地域ケアプラザのエントランスの掲示、広報誌「くじら通信」発行、掲示板や回覧板、ホームページなどあらゆるものを活用して、地域ケアプラザの役割や事業の周知を図る。 自主事業参加者や貸館利用団体に対して、さらに地域の会合やイベント等の機会を通じて地域ケアプラザの役割を周知する。
■	☐	地域の会合や集いの場に出向いたり、地域のイベントに積極的に参加し、地域の情報収集とニーズ把握に努め、地域ケアプラザ内で情報共有を図る。さらに地域の皆様との信頼関係を構築する。
■	☐	自主事業などで新しい仲間づくりの場を提供する。広報誌「くじら通信」を毎月発行し、地域ケアプラザのイベントの周知を図る。さらにSNS等を活用して、特に若い世代への事業の周知を図る。
■	☐	民生委員とケアマネジャーが連携が取れる関係構築に向けて懇談会を開催する。併せて利用者の支援が協力して行えるように地域の支援団体と顔の見える関係を構築する。
■	☐	地域活動団体との顔の見える関係を築き、またケアマネジャーをはじめとした支援者及び事業者とも信頼関係構築と連携体制をつくり、身近な地域住民及び地域の抱える高齢者問題を取り上げて会議を行う。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

新規開所施設であるため、職員が地域のサロンや居場所、夏祭り、スポーツイベント等に積極的に出向き、サロン等で貸館登録団体の演奏やひまわりホルダーの登録会などを実施し、地域ケアプラザの広報と地域支援を行うことができた。また広報誌「くじら通信」(A3で両面印刷、二つ折り)を毎月発行し、掲示板に貼るには大きすぎるとの地域の要望を受けてA4サイズ両面印刷の概要版の広報誌も作成し自治会・町内会の掲示板に貼りだせるようにした。SNSを活用した地域ケアプラザ自主事業の広報も開始し、現時点で登録者が200人を超えるまでになった。さらに商店街が行う大規模イベントに積極的に参加し、地域の一員となり、信頼関係を作ることができた。

初年度であるため、周辺の地域ケアプラザから、地域包括支援センターが要支援ケースの引継ぎを行ったが、問題なく支援の継続をすることができた。

☐ 区からのコメント

ケアプラザの開所からまだ日が浅い中でも、他のケアプラザからの引継ぎを着実に行いつつ、各事業の取組を進めていただきましたことに感謝いたします。上永谷駅からのアクセスの良さや広い貸室、コミュニティハウスとの合築施設であることによる利用目的の幅の広がりに加え、魅力的なイベント企画などが相まって、地域住民にとっての集いの場・憩いの場としての役割を十分に果たしているといえます。

認知症に関する出前講座、キャラバンメイトとの連携、介護者のつどい等、認知症支援について進めていただきました。介護者のつどいでは、参加者への配慮を優先する寄り添った開催内容とし、参加者目線での働きかけができました。権利擁護については、終活講座として法定後見人制度や家族信託をテーマに実施し、多くの方が参加しました。今後も地域の特性や課題に合わせた意思決定支援、働きかけをお願いいたします。また、近隣の医療機関とも積極的に連携を図っていただいており、医療機関が多いエリアの強みを活かした取組を期待します。